土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　　査　　名　砂防工事全体計画書作成業務

事　業　・　工　事　名

調査目的及び調査対象　砂防　構造物基礎

ボーリング名	Bor No.5-西ノ谷川補助基準点2	調査位置	広島県安芸郡海田町	北緯	34° 21′ 02.8747″
発注機関	広島県西部建設事務所	調査期間	令和4年 9月 1日～ 令和4年 9月 3日	東経	132° 33′ 13.4535″
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 180.30m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 90° 東 180° 南 270° 西
総削孔長	9.00m	地盤勾配	10° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機：東邦DO / エンジン：ヤンマーNS12 / ポンプ：東邦BG-3

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位／測定月日
1				礫混じり砂		暗褐灰	rd1		砂は中～粗砂を主体とする 径5cm以下の礫を20～40%混入する 径30～50cmの玉石が点在する 部分的に礫を多く混入し砂礫状を呈する GL-3.15mからの標準貫入試験は玉石にあたりN=50回以上を測定する	9/5 2.90
2										
3	176.95	3.35								
4	176.05	4.25		玉石混じり砂		淡灰	rd4		径100～150cmの花崗岩質の転石 転石間は粗砂を主体とする砂 GL-4.15mからの標準貫入試験は玉石にあたりN=50回以上を測定する	
5	175.05	5.25		礫混じり砂		灰褐			径5cm以下の礫を20～40%混入する 部分的に細砂を混入する GL-5.15mからの標準貫入試験は玉石にあたりN=50回以上を測定する	
6	173.60	6.70		玉石・礫混じり砂		淡茶灰 淡灰			径10～100cmの玉石及び転石が連続的に混在する 転石間は均粒な細砂が混入する	
7	173.10	7.20		花崗岩		淡青灰			CM級岩盤 L=5～15cmの短柱状～柱状コアで採取	
8	172.50	7.80		花崗岩 花崗岩		淡茶灰 淡青灰			CL級岩盤 径5cm以下の短柱状～岩片状コアで採取 部分的に亀裂面に沿って礫状～細礫化する CH級岩盤 L=10～60cmの柱状コアで採取する コア肌は滑らか GL-8.40m付近では亀裂に沿って礫状～細礫化する	
9	171.30	9.00								
10										
11										
12										
13										
14										

標準貫入試験

深度―N値図（0 10 20 30 40 50 60）

N値	深度 (m)	100mm毎の打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
	1.15	1 / 150	1 / 150		2 / 300		
2	1.45						
	2.15	1 / 200	1		2 / 300		
2	2.45						
	3.15	20	30		50 / 200	200	
50以上	3.35						
	4.15	50			50 / 10	10	
50以上	4.16	10					
	5.15	50			50 / 100	100	
50以上	5.25						

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	削孔月日
				9/1
				9/2
				9/3